



兵協連だより

HYOGO CONSUMERS' CO-OPERATIVE UNION

2026 **1**



12月6日に消費者支援機構関西（KC's）の設立20周年記念シンポジウムが開催されました



開会挨拶をする、消費者支援機構
関西（KC's）の数田高広理事長



「KC'sのこれからの20年にむけて」をテーマに、
パネルディスカッションが行われました

※消費者支援機構関西（KC's）は、内閣総理大臣が認定した、ひとりひとりの消費者に代わって、訴訟等ができる「消費者団体訴訟制度」に基づいて、消費生活に関する情報の収集及び提供、消費者被害の未然防止や拡大防止、被害回復に向けた活動を行う特定非営利活動法人です。





兵庫県生活協同組合連合会
会長理事

岩山 利久

(いわやま・としひさ)

チャレンジ

2026年、新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり、会員並びに関係団体の皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年と同様、私たちを取り巻く状況は、内外ともに危機感と不安感に覆われています。継続する環境破壊や核戦争の危険性、格差の拡大、心細いほどの食料自給率など、心が痛み心配になる問題は解決の糸口が見えません。また、国連が2030年までに持続可能な世界を目指し掲げた「SDGs」は、達成の目途が立っていないと言われていています。このように先が見え難い今、協同組合に関わる私たちは、賀川豊彦の「愛と協同の精神」を再確認する必要があると考えます。

2025年は国連が定める2回目の国際協同組合年でした。協同組合は地域で活動する共助を大切にした組織として、持続可能な地域社会の実現に向け役割発揮が期待されています。2025年度兵庫県生協大会では、300名を超える皆さんが参加し、県下の協同組合や友誼団体が一致団結し

てブース展示などを行い、協同組合の取り組みをアピールしました。大切なのはこれからです。2025年の取り組みをステップに、2026年は協同組合の役割発揮に向けて色んなことに「チャレンジ」したいと考えています。今年の干支は午です。馬は古くから身近な存在であり、縁起のいい動物と言われています。

また、午年は「大化の改新」や「本能寺の変」など、新しいものが生まれるような出来事が起きています。協同組合も従来の連携から一歩も二歩も前進させ、新しいもの（仕組み）作りに「チャレンジ」することで、持続可能な地域社会の実現に貢献したいと考えていますので、多くの「チャレンジ案」をみんなで出しあう2026年にしましょう。

最後になりますが、今年も会員の皆さま関係団体の皆さまとともに、兵庫県下の協同組合の発展に向け努力してまいりますので、引き続き温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

CONTENTS

2. 想点

3. 会員生協・団体：今年の抱負

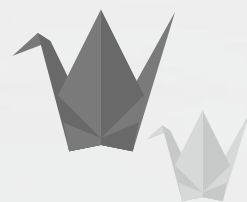
13. 会員生協・団体：今年の抱負／
第4回理事会 開催報告

14. 協同組合のかけ橋

15. 兵庫県のページ／ヨッシーの窓

16. 初級経理学校 お知らせ／県連行事予定／編集後記

2026年 今年の抱負



地域とともに駆ける一年へ



生活協同組合コープこうべ
常勤理事

瀬戸口 恵子
(せとぐち・けいこ)

新年あけましておめでとうございます。
今年は午年。勢いよく駆ける馬のように、地域のみなさんと一緒に、前へと力強く踏み出す一年にしたいと思っています。

さて、コープこうべの定款第1条には、「くもつてあまねく公共の福祉を増進するとともに、健全な社会の確立に貢献する」と謳っています。

これまで私たちは購買事業を軸に、組合員とのつながりを育んできましたが、いま地域社会は、過疎化や生活格差、孤立、労働力不足など、より複雑で深刻な課題に直面しています。こうした状況の中で、生協が事業で得た剰余を地域へ還元し、くらしを支える非営利組織としての役割は、これまで以上に重要性を増しています。

現在コープこうべでは、「つどい場」による見守りの輪、社会福祉協議会との協働による心の通う宅配、障がいのある方の活躍の場づくり、こども食堂への食材提供など、地域に寄り添う取り組みが徐々に広がっています。

今年も歩みをとめることなく、「誰もが安心してくらし続けられる健全なる地域社会」の実現に向け、組合員・地域の皆さまと共に取り組みを進めてまいります。

設立40周年を迎える2026年



生活クラブ生活協同組合
都市生活
専務理事

山本 晋也
(やまもと・しんや)

新年あけましておめでとうございます。

2024年は世界の暴力に衝撃を受け、2025年は敗戦80年の年。平和を考える絶好の機会になるはずが、いざ終わってみると、世界に平和が訪れることはなく、「それが普通」の年になりつつあります。また、同じ考えの人といることに心地よいと感じる人間の性質に狙いを定めた「アルゴリズム」やSNS上のデマに強く危機感を覚えた一年でした。

そんな年に、国際協同組合年が制定されたことは大きいです。各地の催しは協同組合の価値を再認識する機会になったでしょう。兵庫県生協大会も県内生協や協同組合が肩を並べて参加し、「兵庫県には活発な協同組合がある！」とPRできました。私どもも近畿労働金庫に協同組合について研修いただき、また、医療生協のイベントにも参加しました。直接的に地域の人と出会う新たな協同組合間連携が進んだ一年でした。

さて、本年は生協設立40年を迎えます。これまでの歩みを振り返りつつ、長く運営に携わる組合員、新しく組合員と共に存在価値を地域に知ってもらう取り組みを考えていきます。

今年こそ「対立と分断より融和を、論破ではなく議論を、白黒の追求ではなく柔和な公平を、他者を軽視しない共感と余裕を」となるように。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

生協と福祉



生活協同組合
コープ自然派兵庫
専務理事

横川 誠也
(よこがわ・せいや)

本年も宜しく願います。

世界で起こる様々な紛争による分断、物価高騰による生活苦、社会福祉への課題解決が進まず、国民の生活は年々厳しさを増しています。昨年は、戦後80年、震災後30年、国際協同組合年の節目の年となり、平和や生活、協働をテーマに活動し、社会福祉の重要性を感じる一年でした。

コープ自然派は、有機農業を推進することで環境や社会福祉の改善を目指し、「国産オーガニック」をさまざまなチャンネルで消費できる社会をつくりたいと考えています。その一つとして、有機農産物の公共調達の仕組みをつくるために昨年5月、100万人のこども達の給食に関わる(株)泉平と県内のオーガニック給食の推進につなげるための連携協定を結びました。それぞれが役割を持ち行動しています。

その他、環境問題やこどもの福祉、平和への活動を協同組合や関係組織と行動できたことは、生協の成長にもつながりました。本年は、引き続き地域と連携すること、国産オーガニックと連携した福祉の事業化に向けた準備をすすめていきます。



生活協同組合連合会
コープ自然派・
オレンジコープ事業連合
理事長

辰巳 千嘉子
(たつみ・ちかこ)

ケアを真ん中に、心豊かな地域づくりを

新年あけましておめでとうございます。

コープ自然派事業連合はこのたび、大阪府南部で尊厳を大切にしたい福祉事業を行うオレンジコープ(泉南生協)と組織合同し、名称をコープ自然派・オレンジコープ事業連合と変更しました。今後は宅配事業に加えて、高齢者福祉事業、障害者福祉事業を各単協で展開していく予定です。

日本社会はいま、少子高齢化により労働力が減少し、生活基盤の危機に直面しています。農業や介護の担い手は急減し、生活に不可欠なモノやサービスは不足し、暮らしは苦しさを増しています。この背景には、利益の出ない分野には資源が届かない資本主義の限界があり、その結果として、格差や貧困が広がり、分断と対立が深まっています。いまこそ「助け合いの組織」として、弱者の立場に立つて地域に貢献する生協の役割が求められています。誰もがケアし、ケアされる社会、人と人をつなぎ、いのちを守る協同のしくみです。

本年も、食・農・環境のいのちのサイクルを守るために国産オーガニックを推進しつつ、ケアを真ん中に置いた、誰もが心豊かに暮らせる地域づくりに取り組みたいと考えています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



西宮市職員生活協同組合
事務局長

山田 博貴
(やまだ・ひろたか)

新年の抱負

新年あけましておめでとうございます。

当生協は、兵庫県下唯一の市役所生協として、組合員である西宮市職員への福利厚生のため、サービスの提供に努めています。

昨今の事業状況ですが、令和6年度につきましては、書籍や切手印紙の販売数量が大幅減となったことや、天候不順により、例年、好評をいただいていた三陸地方のウニや高級柑橘類の取扱が中止となる等、全体として前年比で供給高は大幅減となりました。

また、市職員互助会より委託を受けていた市役所本庁舎での食堂の営業が終了したことにより、食堂運営管理委託料収入が減となる等、手数料収入も減となり、厳しい運営を強いられました。

令和7年度につきましては、市職員互助会より委託を受けていた市役所本庁舎での売店の営業が終了したことにより、供給高の減、および売店運営委託料収入が減したこと等により、全体として前年同期比で収入減となっております。

厳しい事業環境ではありますが、本年も様々な事業に取り組めるよう、市の関係部局や互助会との連携をさらに深め、存在意義を高めていく努力を行ってまいりますので、ご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2026年度に向けて



神戸大学生協同組合
専務理事

坂本 安弘
(さかもと・やすひろ)

新年明けましておめでとうございます。

昨年はまだまだ物価高騰が続き、特に米価格の値上げには非常に苦慮した1年となりました。当たり前のことが当たり前でなくなることや驚きを隠せません。普段何気なく食べていることやできていることの大切さ。特別ではなく普通が一番であり、その普通を維持することの難しさをあらためて考えられました。また、企業のサイバー攻撃も大きな話題となりました。大きな企業（有名な企業）を対象とした攻撃ですが、大学生協も多くの組合員皆様の貴重な情報を保持しています。規模に関係なく、組合員からお預かりしている有形無形の全ての財産を守らなければならぬと強く感じました。さて、2026年の干支は「午」ですが、60年に1度の「丙午」の年となります。午年は躍動感や力強さの象徴で、物事が順調に進むや目標達成等の成功を意味するとされています。その中でも丙午はさらに縁起が良いようです。

なかなか厳しい経営環境ではありますが、干支にあやかり躍動の年にしたいと思います。本年も引き続き、皆様からご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い致します。

2026年度へ向けて



関西学院大学生協同組合／
大手前大学生協同組合
専務理事

斉藤 和久
(さいとう・かずひさ)

新年あけましておめでとうございます。旧年中はひとかたならぬご高配にあずかりまして誠にありがとうございました。

関学生協では中期計画の一つに「食事業の再構築」というテーマを掲げています。2025年度より食事の年間定期券「ミールパス」を導入し、大変多くの学生組合員に食堂メニューやテイクアウト弁当、焼きたてパンをご利用いただけるようになりました。夕方食堂が学生組合員で賑わうようになる等、大学生協として学生組合員にきちんと食事の提供ができていたと大変嬉しく感じております。来年度はこの「ミールパス」をもっと多くの学生組合員にご利用いただきたいという思いから、生協ショップでも取り扱っている食品も利用対象にする予定です。食事を疎かにすることなく、健康を維持しつつ、自分のしたいことに思いっきりチャレンジして欲しい。それが大学生協としての願いであり使命であると改めて認識し、日々の業務に努めて参ります。本年も皆様からご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2026年の抱負



神戸市外国語大学
消費生活協同組合／
専務理事

吉田 雄一郎
(よしだ・ゆういちろう)

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は当生協の活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨今の円安や物価高の影響を受け、生活コストは引き続き増大しています。

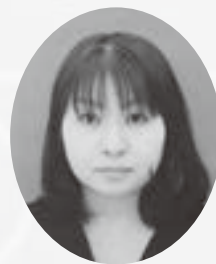
大学生協も例外ではなく、原材料費や物流費等の高騰を受けた食堂メニューや購買商品の値上げにより、学生をはじめとする組合員の皆さまには多大なご負担をお掛けしてしまっています。

私たちは、これまで組合員に寄り添うことを大切に歩んできました。今年はその姿勢をさらに強め、厳しい状況下においても「選ばれる生協」を目指し、より質の高いサービスの提供に努めてまいります。

特に「食」の分野は保護者の皆さまや大学からも大きな期待を寄せていただく部分であり、それに応えるべく2026年度から新たに「ミールシステム」を導入する予定にしています。

神戸市外国語大学生協は「組合員に必要とされ続ける生協」を目標として掲げます。日々大きく変化する経済環境の中でも、組合員の皆さまにより安心してご利用いただけるよう、事業の改善と工夫を重ねてまいります。そして、ご利用いただくことにより生じた経営上のゆとりを、価格やサービス面の向上という形でしっかりと還元できるよう、より一層精進いたします。

本年も皆さまからのご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



甲南大学生協同組合
専務理事

内田 真紀子
(うちだ・まきこ)

2026年を迎えるにあたって

新年あけましておめでとうございます。

ここ数年、戦争や紛争などの世界情勢による不安や、物価上昇に伴う生活の厳しさなど、暗い話題も続いております。そうした中、甲南大学生協では2025年のテーマを「明(めい)」と定め、組合員の皆様に少しでも明るい気持ちで生協をご利用いただけるよう、事業活動に取り組んでまいりました。

一昨年より開始いたしました神戸市中央卸売市場東部市場との連携企画では、産地と学生をつなぐ取り組みとして、徳島・愛媛・鹿児島・和歌山・鳥取・福井・香川の各県よりご協力を賜りました。多くの学生組合員にとって、自らの生活と地域、そして市場がどのようにつながっているのかを学ぶ場となり、大変好評をいただいております。加えて、「神戸の魚文化を学ぶ活動」も新たに開始いたしました。

また、新入生を迎える活動では、学生が中心となり、「入学前に感じた不安を希望に、ドキドキをワクワクに変える」をテーマに前向きに準備を進めております。その姿勢に、私たちも日々励まされております。

少子化が進み、教育や大学が大きな変革期を迎える中、生協におきましても、過去ではなく「今」の組合員の声をしっかりと受け止め、組合員の皆様とともに未来を切り拓くべく、学園および大学と力を合わせ、着実に歩みを進めてまいりる所存です。

本年も変わらぬご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



兵庫県立大学生協同組合
専務理事

中尾 太樹
(なかお・たいき)

2026年度へ向けて

新年あけましておめでとうございます。
旧年中は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

兵庫県立大学では、2026年春から一部学部で、学部改組を予定しております。複雑化・多様化・グローバル化する現代社会からの要請に答え、社会の変革をリードできる人材育成をさらに推進するために、2026年以降も学部等の再編を断続的に進めていく計画であると同っております。

このように大学が絶えず変革を進めていく中、大学生協はどうなのでしょう。現在の学生、教職員、大学からの新たなご要望にお応えするために、さらなる変化を続けていく必要があると考えております。

大学生協はこれまででも変化に対応していくため、大学生協間の連携を密にし、対応しておりましたが、これからのダイナミックな社会情勢の変革に対応していくには、地域の協同組合の皆様との連携をより一層強化していくことが重要であると考えております。

昨年11月11日には兵庫JCCの皆様へ、大学にお越しいただき、大学生に向けてワークショップ、「未来に向けたSDGsアクション」を開催していただきました。これから社会に巣立つ学生の皆様へ、協同組合という選択肢と、その意義をご理解いただく貴重な機会となったものと感じております。

今後ともこういった取り組みは、ますます重要性を増していくと考えております。協同組合、大学生協が社会に貢献し、組合員のお役に立てるように、引き続き絶え間なく変革を進めてまいりたいと存じます。本年も引き続き、皆様のご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



神戸薬科大学生協同組合
専務理事

内田 真紀子
(うちだ・まきこ)

2026年を迎えるにあたって

新年あけましておめでとうございます。

2025年度は、学生組合員の日々の楽しみをお届けするため、新しいメニューやスイーツを導入し、店舗においてもさまざまな企画を行ってまいりました。また、学生のカリキュラム変更により食堂利用が集中する傾向が強まり、理事会では、食堂や購買店舗をより気持ちよくご利用いただくための改善について、議論を重ねてまいりました。日頃から店舗をご利用いただく薬科大の学生組合員の皆様から多くのご意見を頂戴し、その声が改善につながっております。

生協としても、薬科大の組合員の皆様に寄り添うべく、変化した学生生活に対応した新たな店舗運営を進めております。事業としては依然として厳しい状況が続いておりますが、学生・教職員と生協職員が顔の見える関係を築き、個別にご意見を伺うことができる点は、薬大生協の大きな強みでもあります。

組合員一人ひとりの声を受け止め、必要なことへの対応や期待にお応えすることで、「自分の大学に生協があつてよかった」と感じていただけるよう、今後も努力を続けてまいりる所存です。

本年もご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

2026年度に向けて



神戸親和大学生協同組合
専務理事

坂本 安弘
(さかもと・やすひろ)

新年明けましておめでとうございます。

昨年から神戸親和大学の学修スタイルが大きく変わりました。クォーター制度への移行、そして地域共創科目の開設です。地域共創科目では、組合員がキャンパスを飛び出し、地域のコミュニティと一緒にいろいろなことを学ぶ（活動・体験）授業です。4年間と言う限られた大学生活の中、様々なことにチャレンジすることは非常に重要です。きっと将来、この経験が役に立つと確信しています。

ただ、この科目が開講される学期は曜日によって組合員の利活用が大きく増減することとなり、当生協として厳しいです。

大学が進化していく中、大学生協も柔軟な対応が必要です。年々変化する組合員のキャンパスライフに、どのように寄り添うべきなのか。なかなか答えを見つけることができませんが、2026年も事業・活動に尽力する所存です。

本年も引き続き、皆様からご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い致します。

2026年を迎えて



園田学園大学
生活協同組合
専務理事

大西 範和
(おおにし・のりかず)

新年あけましておめでとうございます。

2025年は大学に大きな変化があり、4月より男女共学化となりました。生協も「園田学園女子大学生生活協同組合」から「園田学園大学生生活協同組合」へ名称変更し、いろいろな手続きや対応を行いました。また、設立30周年を迎えた年にもなりました。

まだ人数は少ないですが、キャンパスに男子学生が加わり、雰囲気も少し変わったように思います。コロナ禍以降できていませんでしたが、参加してくれた男子学生が盛り上げてくれたこともあり、4月には新生生の交流会を開催することができました。

数年ぶりに学生組合員が共に楽しんでもらえる企画を実行できたのではないかと思います。その後、食堂のメニューを決めるための試食会開催や、100円朝食提供に協力させてもらったり、学生主催の学内ライブに協力してほしいというような要望をもらったり、学生組合員と一緒にいる活動が増えた1年になりました。

本年はさらに組合員と共に活動できるような企画や場所を増やしていけるよう取り組んで参りたいと考えております。

今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

2026年を迎えるにあたって



甲南女子大学生生活協同組合
専務理事

金保 吉郎
(かなほ・よしろう)

新年あけましておめでとうございます。

2025年度は、学生の皆さんと一緒にいろいろな企画を行いました。カフェで使っているパン生地を提案し、学生と一緒に授業で新しい焼き立てパンを考え、実際にカフェで販売するといった取り組みをしました。また東灘スイーツめぐりにも参加し、学生さんの考案したお菓子を販売しました。

2026年度を迎えるにあたり、甲南女子大学生協は、学生のみなさんの学びと成長を支え、より豊かなキャンパスライフを実現する存在として、引き続き新たな挑戦を進めてまいります。

大学を取り巻く環境は年々変化しています。学びのデジタル化、学生生活の多様化、食や健康に対する価値観の変容など、生協に求められる役割も以前より大きく、かつ複雑になっています。こうした変化に対応するため、私たちは2026年度を「学生参加型の価値共創」をさらに推し進める一年と位置づけました。

生協は「組合員である学生一人ひとりがつくる組織」です。みなさんの声やアイデアが、生協のサービスを未来へと進化させる原動力になります。

2026年度も、学生・教職員・生協が一体となり、安全で安心、そして快適なキャンパスライフを共につくっていきけるよう尽力してまいります。本年度もどうぞよろしくお願い致します。



神戸市立工業高等専門学校
生活協同組合
専務理事

寺田 雅裕
(てらだ・まさひろ)

2026年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。2025年は学生の賑やかな声が店内のあちらこちらから聞こえ、学生の笑顔溢れる年となりました。

生協の事業としては、昨今の円安の影響や原材料の高騰を受け、値上げが続いている中でも、組合員には引き続き利用を頂いており、今後とも組合員に愛されて利用したくなるお店作りをしていきます。

2026年は神戸高専生協にとって大きな変化の年となります。4月に学科再編が実施され、5学科から6学科体制に変更になり、同時に学生はパソコンの必修化が始まるなど学内の学修環境が大きく変化する1年となります。学修環境の整備の面でもサポートしている生協でも、大きな環境変化に対応できるように準備を進めていきます。

食堂は月替わりのフェアメニューを提供や積極的に新メニューを導入して毎日利用してくださる組合員を飽きさせないよう努めて参りました。

厳しい状況ではございますが、本校の組合員に寄り添っていきけるよう、勉学面でも生活面でもサポートを続けていければと考えております、そのためにも職員一同力を合わせて尽力して参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



生活協同組合連合会
大学生協事業連合
常務理事(関西北陸地区統括)

國見 伸行
(くにみ・のぶゆき)

学生の生活向上を目指す飛躍の年に

新年あけましておめでとうございます。

兵庫県生活協同組合連合会の会員生協のみならずにおかれましては、日頃より弊会の諸活動にご協力頂きまして誠にありがとうございます。また大学生協支援活動においては多大なご尽力を頂いておりますことにあらためて御礼申し上げます。

2025年は大学生協にとって本格的に事業の再拡大に乗り出した年度となりました。とりわけ「食」と「学び」の分野で大きな前進となりました。

「食」の分野では、食材価格が高騰し、学生生活に大きな影響を与える中、食堂での食事定期券である「ミールカード」を大きく前進させることができました。食費を削ること無く安心して健康によい食事をとっていただくこの取り組みの拡がりとともに事業回復にも寄与しました。

「学び」の分野では、大学の勉学研究に欠かせないパソコンやiPadの提供だけでは無く、学びを止めないサポートや、より有効な活用を為の講座を「三位一体」の事業として旺盛に推進いたしました。大学での学びの有り様は従来とは比較にならないスピードで変容しており、今後はAI活用を真正面からとらえたハードや講座の提供に努める必要がありますし、学生のよりよい学びに貢献することが課題となっています。

今後ともご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



神戸医療生活協同組合
理事長

道上 哲也
(みちがみ・てつや)

2026年のはじめにあたり

新年おめでとうございます。

今年、神戸医療生協は創立65周年を迎えます。昨年は、その準備として組合員と職員が協同し、さまざまなとりくみをすすめてきました。3月15日には記念企画を開催します。これまでの歴史や教訓に学び、事業と運動を次の世代に引き継ぐ大切な企画にしたいと考えています。

いま医療をめぐる状況は変化のときを迎えています。社会保障費抑制のため、高齢者の窓口負担増、OTC類似薬の保険外し、病床削減、高額療養費の自己負担増などが議論されていますが、そのような現状に対して、日本医師会をはじめ病院団体が警笛をならしています。わたしたちは、「地域住民の医療を受ける権利を保障するために医療機関の維持・存続への支援を求める請願署名」にとりくんでいます。

ウクライナやガザでの出来事は平和の実現が待たないであることを示している一方で、日本の防衛費GDP比2%への増額計画など、世界の平和を望む人々の願いに逆行する危険な動きもみられます。

健康の輪・助け合いの輪・世直しの輪の三つの輪の理念を日常的に実践し、社会保障の充実や平和のためのとりくみをすすめる年にならなければならない。

最後になりますが、本年が皆様にとって充実したよい年であることを祈念し、新年のご挨拶とします。今年もよろしく申し上げます。



尼崎医療生活協同組合
理事長

大澤 芳清
(おおさわ・よしきよ)

地域のいのちとくらしをまもる新しい一年を

新年明けましておめでとうございます。

昨年は当医療生協の運動にご協力ありがとうございました。2025年は、コメなどの食品を中心に物の値段が上がり、わたしたちの暮らしは苦しくなりました。介護報酬や診療報酬は物価の上昇に追いつかず、人材不足が加わり事業所の経営は今まで以上に難しくなりました。さまざまな医療団体が、今年の診療報酬改定は10%以上を要望しています。介護報酬の期中改定や介護事業所への財政支援を求める声も日々大きくなっています。昨年11月末に公表された「強い経済」を実現する総合経済対策では、医療・介護等支援パッケージが示されました。介護・医療への施策に期待をしたいと思っています。

その一方で、OTC類似薬を含む薬剤自己負担や高齢者の窓口負担割合等に金融所得を反映することなど私たちの負担増も示されました。そして第3節防衛力と外交力では防衛力整備の推進が示されています。私たち尼崎医療生協は、全ての戦争政策に反対しています。昨年12月には、兵庫県で2つ目となる9条の碑を尼崎医療生協の敷地内に建立しました。2026年を戦争の準備ではなく平和の準備の年に、そして権利としての社会保障の実現に向けた運動をすすめていきます。本年もよろしく願いいたします。



阪神医療生活協同組合
専務理事

蓮見 克也
(はすみ・かつや)

新年を迎えて

新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしく願い申し上げます。

2025年は団塊の世代が高齢者となり、多くの患者、利用者が医療と介護を利用する中で、働き手が減った状態で運営を余儀なくされるという予想でしたが、実際に起こったことは、物価高騰により、生活が苦しくなる中で、医療や介護を控える、ないし減らすという人が多く発生しました。

事業運営も患者、利用者の取り合いの状況が生まれ、保険点数が削減される中で、益々効率よく、医療と介護を行わなければ、利益が出ない仕組みになっています。

事業継続をしなければならぬために、様々な効率化や人員配置を考えなければならぬ状態になり、そもそも医療と介護は何のために、誰のために行うのかという前提が覆ってきているように思います。

政府は国民皆保険や介護保険が社会保障の一環のはずが、効率、利益を求める中で、残る社会保障だけで運営せざるを得ないと判断されているようです。2026年は事業経営が苦しくなる中でも、私たち生協は誰のためのものか、何をやるかを忘れずに邁進していきたいと思っています。

本年もご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



宝塚医療生活協同組合
理事長

茅野 涼一
(かやの・りょういち)

厳しい経営環境の中で協力し合う医療生協

新年 明けましておめでとうございます。皆様には、穏やかで希望に満ちた新年をお迎えのことと、お喜びを申し上げます。

地球温暖化と気候変動の影響で、大きな災害が地球の至る所で発生して、日本の四季の分別がつかないような気候になり、心休まる時期が少なくなっているように感じます。

さて、私どもの宝塚医療生協では、介護保険の改定によって、経営環境が悪化し、役員、地域組合員、支部運営委員一同、経営改善に取り組んでいるところです。私たちは、各事業所の上部組織として、兵庫県民主医療機関連合会（略称県民医連）に参加していますが、この県民医連から、組織をあげて経営指導などの支援をいただいています。私は、心強い思いで頑張っています。本当にありがたく思っています。

世界に目を向けると、ロシアとウクライナ、パレスチナとイスラエル戦争、地域紛争など、目を覆いたくなることが多い状況です。国連の平和主義の原則に反して、自らの勝手な理屈で戦争を続けています。生活協同組合の「一人は万人のために、万人は一人のために」の理念で、世界が平和で、飢餓に苦しむことなく、だれもが幸せに生活ができるような社会が、早く到来して欲しいものです。

皆様のご多幸を祈願して、新年の挨拶といたします。



姫路医療生活協同組合
専務理事

黒岩 勝博
(くろいわ・かつひろ)

自ら変化を創り出す 1年に

新年明けましておめでとうございます。

2025年度は、前年度に引き続き、事業の再編(2025年7月に居宅香寺を居宅介護の窓口に統合)をすすめました。職員と法人の成長を目的とした人事評価制度の運用では、介護職員の試行をスタートさせるとともに2026年度に向けた介護職以外の人事評価制度の構築準備をすすめました。法人として、生産性向上委員会を立ち上げ、「現場の余力を生み出し、ケアの価値を高める」環境づくりをすすめています。また、11月には、2つのビッグイベント「共立病院マルシェ」と「第24回介護・医療フォーラム」生協10の基本ケア実践発表会」を多くの地域組合員や職員組合員、地域住民、諸団体の方々の参加を得て成功させることができました。今年「生協10の基本ケア」の視点を取り入れた組合員活動を具体化し、姫路医療生協のくらしの安心ネットワーク「つながり」「健康づくり」「助け合い」のあるまちづくりを地域にひろげていきたいと考えています。環境変化に対応し「自ら変化を創り出す」ことを意識し、創意工夫した事業と活動を推進いたします。

本年もよろしく願っています。



ろっこう医療生活協同組合
理事長

小西 達也
(こにし・たつや)

私たちも、高血圧症「未治療」ゼロチャレンジ

あけましておめでとうございます。

一昨年の秋に、本部と小規模多機能を統合した「ケアベース水道筋」が無事竣工し、昨年は瀧診療所のリニューアル工事を、休診することなく無事に完了できました。組合員活動の面でも「賀川豊彦に学ぶバスツアー」や「阪神淡路大震災30年、神戸・東北・能登をつなぐ水道筋さんま祭り」などの催し物を開催することができました。さて、この十数年の大企業と富裕層への露骨な優遇政策のために、賃金や物価で世界に取り残され、国民には著しい経済格差が生じてしまいました。さすがに与党も介護労働者賃金の原資である介護報酬について見直しをするようです。しかし、医療労働者の賃金原資である診療報酬改善については不透明です。

健康格差も明らかになっています。糖尿病では有用な注射製剤が発売されていますが、自己負担金のために内服薬からの変更を躊躇する患者さんを見かけます。高血圧についても「薬を飲み始めたらずっと飲まないといけなくなるからもう少し先に延ばす」という声を聞きます。我が国の高血圧者数は約4,300万人ですが、高血圧を認識していない人1,400万人、認識しているが未治療の人450万人などの数字が挙げられており、クリニカルイナシュー(臨床的怠惰、問題解決の先送り)が問題視されはじめました。

健康寿命が都道府県で最下位の青森県は、「高血圧症未治療ゼロチャレンジキャンペーン」を実施しています。期間中に病院で初めて降圧剤を処方された県民に抽選で、最高10,000円分のQUOカード等が当たるといいます。

政府は「生活習慣病」という言葉で、不健康や病気の原因を個人の責任にフォーカスする政策をすすめ、私たちも「健康的な生活習慣のおすすめ」を運動として続けてきました。そのことが内服軽視という誤ったメッセージになっていなかったか、低医療費政策に都合よく利用されていなかったか、私たちも青森県を見習うべきと感じています。



たじま医療生活協同組合
専務理事

松本 幹雄
(まつもと・みきお)

地域とともに

新年明けましておめでとうございます。

昨年は国際協同組合年であるとともに、当組合の創立30周年という節目の年でもありました。少子高齢化や人口減少、家族形態の変化、テクノロジーの急速な進展など、地域を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。こうした中で、協同の理念という原点に改めて立ち返ることの大切さを強く実感した一年でもありました。

生協間で新たな交流が広がりました。神戸医療生協の組合員さんからの声掛けをきっかけに、神戸の組合員の皆さまにたじまでの終活講演会に講師等に来ていただき、また、神戸でのそば打ち体験会には、たじまから職員や組合員が講師として参加いたしました。地域を越えたつながりが深まったことは、協同組合ならではの連帯を改めて感じる貴重な経験となりました。

情勢は依然として厳しい状況が続いています。医療・介護報酬の問題に加え、医師・看護師等の不足も深刻化しており、経営の改善が急務となっています。こうした時こそ、協同の力を信じ、地域に寄り添いながら課題に真摯に向き合い、持続可能な医療と福祉の体制づくり、そして誰もが安心して暮らせる地域づくりに邁進してまいりたいと存じます。

心のあたたかくなる社会を実現しよう



ひまわり医療生活協同組合
理事長

三橋 徹

(みつはし・とおる)

新年を迎え、組合員さんと地域の方々を笑顔にするために日々奮闘されている皆さまに敬意を表します。

他方、パレスチナでは虐殺が、ウクライナでは戦争が本場に長期継続し、日本国内でも物価高が進み詐欺が横行、がんや慢性疾患も高齢化のスピード以上に増大して、命を失う方も増えています。

昨年10月にスタートした高市政権も、70%の支持率を保ち積極財政と言いつつも消費税減税はしませんでした。医療介護でも、被災地支援でも、あらゆるところにはたらく消費税減税を実現する政権に何としてもしたいですね。

同時に、今だけ金だけ自分だけ、とは反対の、心のあたたかくなる気持ちの良い社会を実現したいですね。10年20年先を見て、お金では買えない豊かさを持ち、みんなが幸せになる社会は一人一人が身近な誰かを笑顔にする・幸せにすることから少しずつ実現すると思います。

一部の人が巨額の富を手にして、多くの人が死傷する戦争や核開発は絶対にダメです。平和とみんなの幸せを私たちの手で創る年にしましょう。お読みいただきありがとうございます。

新年のご挨拶



神戸市民生活協同組合
専務理事

岡田 健二

(おかだ・けんじ)

新年あけましておめでとうございます。当組合は、昨年3月、創立70周年を迎えました。これもひとえに、組合員の皆様のご支援ご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

昨年は、生成AIや脱炭素社会の実現に向けた技術革新が進み、そして大阪・関西万博が開催され、世界各国から多くの来場者が集まり、新たな技術を体験するなど、未来に向けた共生社会や持続可能性の重要性が強調された1年でした。

万博の理念は、私たち生協が大切にしてきた「支えあい・助けあい」の精神と通じるものがあり、社会全体が、「変革の時代」へと踏み出す中、地域生協として組合員の皆さまの安心をどう守るかが、私たちの大きな使命だと改めて感じております。

2026年、急速に進化するデジタル技術を積極的に取り入れ、業務の効率化と新たな価値創出を進めるとともに、環境配慮型の事業運営を一層推進してまいります。

そして、新しい時代にあっても、生協の原点は人と人とのつながりです。地域の絆を大切に、組合員の皆さまに「頼んでよかった」と感じていただける生協であり続けるために、私たちはこれまで以上に、組合員の皆様一人ひとりに寄り添い、安全・安心の暮らしを支えるために全力を尽くす所存です。

これからも「支えあい・助けあいの市民共済」として、信頼される生協を目指して邁進して参ります。本年も皆様の変わらぬご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新年の抱負



尼崎市民共済
生活協同組合
理事長

赤川 孝平

(あかがわ・こうへい)

新年、明けましておめでとうございます。昨年は、阪神タイガースが球団創設90周年という記念すべき年に、見事リーグ優勝を果たしました。当組合も創立70周年という節目の年でした。6月には尼崎市出身のフォークデュオ「紙ふうせん」と尼崎市在住の「露の団姫」さんにご協力いただき記念式典を開催致しました。

当初は組合員の皆さまに記念品をお配りすること位しか考えていなかった職員が「せっかくの70周年、やっぱり何かしたいよね」との思いから、総代会の日に合わせ、僅か6カ月間で開催に漕ぎつけた記念式典でした。

職員の努力の甲斐もあり、組合員の皆さまと、これまでの歴史を振り返ると共に新たな一歩を踏み出す活力を得る記念式典が出来ました。

そして12月には当組合初となる記念誌を発行致しました。初めての記念誌という事もあり、まずは創立当初の資料集めから始まりました。

歴史資料館や図書館に通い悪戦苦闘しましたが、そんな中でも大きな発見がありました。

それは、当組合創立に当って「日本生協の父」と言われた賀川豊彦氏が大きく関わり、創立後も2年間、当組合の顧問を務め、共済事業の基盤づくりにご尽力くださったという事実でした。

さて、当組合も今年は更なる発展を目指す新しい年を迎えました。

職員一同、協同組合の理念である「相互扶助」の精神を再確認し、地域に密着した共済生協を目指して精一杯頑張って参ります。

皆様、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

創立70年



姫路市民共済生活協同組合
代表理事・理事長

柏原 浩明

(かしはら・ひろあき)

新年あけましておめでとうございます。

姫路市民共済は、昭和31年8月20日に組合を設立して70周年の記念の年を迎えます。

設立以来、地域住民の相互扶助のしくみである火災共済や生命共済などの事業を通じて、地域住民の安心と安定の確保に努めてまいりました。

しかしながら、大地震、異常気象による被害、人口減少、少子高齢化、そして円安、物価高騰、人件費の上昇など我々を取り巻く環境は年々厳しくなっており、厳しい経営状況が継続的に続いています。

このような厳しい状況ですが、創立70年を迎えるにあたり、組合の新たなロゴマークを公募したところ、全国から約400件の応募があり、プロのデザイナーから小学生まで、組合の理念や事業の意義をより多くの方に伝える新しいアプローチとして大きな反響がありました。

今年は、この選ばれたロゴマークの持つ理念・趣旨を広く周知し、今まで以上に組合員の視点に立った事業を展開してまいります。

今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様とご家族が健康であること、そして実り多き一年になりますことを祈念しています。

本年もよろしく願います。

丙午に乗っかって…



西宮市民共済生活協同組合
常務理事兼事務局長

坂本 健治

(さかもと・けんじ)

新年あけましておめでとうございます。

昨年は大阪・関西万博が4月から10月にかけて開催され、当初、集客のため私たち会員組合もボスターやパンフレットで協力しました。だんだん良くなる法華の太鼓のごとき、最終的には多くの人が訪れました。

また、我が阪神タイガースは9月7日にリーグ優勝を決め、11月22日には秋晴れの中、大阪御堂筋で優勝パレードを盛大に行いました。甲子園球場があるのは兵庫県西宮市なのに、兵庫県ではパレードはなく、優勝報告会だけが尼崎市や西宮市で行われました。市民の温度差なのでしょうか？

さて、今年は丙午の年で、十干の「丙（ひのえ）」も十二支の午（うま）も火の性質を持ち、「燃え盛るようなエネルギー」を象徴するとのこと。1966年の丙午の年に出生数が減少した背景には「丙午生まれの女性は気性が激しい」といった迷信があったためで、現在ではこの迷信を気にする人は少なく、「新しい発展の芽が生まれる年」と前向きにとらえられているようです。

このように、今年は火のエネルギーが重なる「情熱と行動力」にあふれる年で、物事が活発に動き出す機会に恵まれるようですが、西宮市民共済は大きな変化を期待するのではなく、地域に根付いた共済生協として、こつこつと丁寧に対応することにより、組合員さんの暮らしの安全と安心を守り続けていきたいと考えています。

2026年を迎えて



兵庫労働共済生活協同組合
専務理事

矢田 哲也

(やだ・てつや)

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、阪神・淡路大震災から30年を迎え、共済活動の原点に立ち返り「万一の災害の際、不幸な組合員を出さない」を合言葉に、住宅再建・生活再建に困る組合員が発生しないよう各協力団体とともに「無保障者・保障不足者」をなくす取り組みを進めてまいりました。昨年は、一昨年に能登半島地震をはじめとして自然災害が多発したこと、また兵庫県南西部で降雹被害があったことにより自然災害に対する意識がこれまでになく高まった年であり、防災・減災の取り組みを含めて火災・自然災害の取り組みについて前進、大きな成果をあげることができました。

しかしながら、当会が実施した『防災・災害に関する全国都道府県別意識調査』では、災害後の再建に備えている人は30%未満。多くの人が住んでいるところでの生活再建を望む（44%）が保険や共済には経済的な理由などから加入できていない（46%が全くできていない・あまりできていない）。また地震保険については正しい知識をもつて保険加入している方は少ないばかりではなく、多くの方が地震による火災は火災保険で対象になるなど誤認していることが判明しました。

これらのことを踏まえて当会では引き続きいつ発生するかわからない大地震等自然災害に「備える」活動を進めてまいります。

併せて、物価の上昇や公的年金制度の不安を背景に、老後に対して不安を感じる人の割合が多い（8割超）との調査結果から、組合員の老後を含めた一生の安心・安全をお届けするために、新たに貯蓄性共済の展開にも本格的に取り組み「みんなでたすけあい豊かで安心できる社会づくり」の理念実現にむけて歩みを進めてまいります。本年も変わらぬご鞭撻・ご指導をよろしく願います。



近畿労働金庫兵庫地区本部
本部長

清宮 豊
(せいみや・ゆたか)

中期経営計画の最終年度「助け合いの金融」を實踐し、
社会に役立つ協同組合としての力を発揮します

新年明けましておめでとうございます。

さて、私たちを取り巻く状況は、相変わらずの不安定な国際情勢や、地球温暖化による異常気象、米
国関税政策の影響等々もあって、鈍化ながらも物価
上昇は続いています。また金融情勢においても不安
定となっており、質上げが出来ても実質賃金は追いついていない状況にあります。

この様な状況下、組合員の皆様の「不安」や「課題」は尽きないことから、当金庫では引き続き『生活応援運動2025』に取り組んでいます。具体的には、金融セミナーを中心に組合員の金融リテラシー向上に努め、高金利ローンの利用防止と借換えにて可処分所得を増やす運動や、資産形成サポートを行うことで、お金の面での支え合い・助け合いの輪を広げていきます。

今年の4月からは、第9次中期経営計画も最終年度の3年目となります。最終年度の生活応援運動の拡大としては、皆様の生協との連携による協働や、営業店ごとの推進取組みに応じてNPO団体を支援する「推しのNPOプロジェクト」に引き続き取り組みます。金融DXへの挑戦では、組合員に接する業務に時間を充てるため、更なる営業店事務の効率・削減を進めていきます。

これらを通じ、組合員に寄り添った組合員本位の相談・提案活動にて、「助け合いの金融」を實踐し、社会に役立つ協同組合としての力を発揮していきます。引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

2025年度 兵庫県生協連 第4回理事会報告

【開催日時】 2025年12月1日（月） 14：00～15：30

【開催会場】 神戸商工貿易センタービル26階 第5会議室

【出席者】 岩山会長理事、末松副会長理事、福井専務理事、
若生、中野、小谷、横川、井上、森本、岡田、矢田、清宮（以上、理事）
瀬井、瀬戸口、柏原（以上、監事）

〈議決事項〉

なし

〈報告事項〉

1. 分野別生協・団体からの活動報告（各理事・監事より）
2. 2025年度上半期（11月まで）活動報告
3. 2025年度上期監査報告
4. 新春トップセミナー・賀詞交換会の開催案内
5. ひょうごまるごと健康チャレンジ進捗報告
6. 「緊急時における応急生活物資供給等に関する協定書」の実施細目変更
7. 兵庫県生協連 行事・諸活動報告（10/6～11/30分）

JF

JF 森・JF 仮屋

豊かな海に向けて “かいぼり”を実施

JF 森（森吉秀代表理事組合長）とJF 仮屋（相田欽司代表理事組合長）は農業者や地元住民と連携し、平成20年から毎年、近くのため池のかいぼり作業を行っています。今年は10月23日（木）、24日（金）の2日間で淡路市久留麻の「七尋池」にて行われました。

初日の作業では池に生息する生物を保護・移動させる魚取り作業と底に溜まった泥を用水路へ流す泥流し作業が行われました。

午前中に行われた魚とり作業では、網やタモを用いてフナやカメなどのほかに60cmサイズのコイも数匹捕獲され、その大きさに参加者から歓声が上がっていました。

午後から行われた泥流しではジョレンによる手作業とモバイルポンプを組み合わせて、池底に溜まっていた窒素やリンを含む腐葉土を含む泥を海へと流しました。参加者は泥に足を取られながらも協力して作業を進めました。

2日目も初日午後と同様に泥流しが行われ、泥を掘り返した際に出てきたウナギを捕まえるなど、楽しみながら和やかに作業を進める様子が見られました。

このかいぼりはJF 森・JF 仮屋が先駆けとなって行われ、淡路島内に留まらず、播磨地区にも広がりを見せており、豊かな海の再生に向けて取り組まれています。



集合写真



魚とりの様子



泥流しの様子

JA

JA 丹波ひかみ 丹波山の芋生産組合

生産者の支援を充実させ、 伝統ある山の芋の栽培を継承する

本企画は、兵庫県を拠点に活動する生産組織にスポットを当て、設立に至った経緯や注力している取り組み、メンバーの意気込み等をご紹介します！

Q1. 組合の成り立ちについて教えてください

丹波市では、山の芋を江戸時代から栽培しており、地域の伝統作物として長年親しまれてきました。しかし、栽培には通気性・排水性に優れた土づくりや年間7回にも及ぶ病害虫防除等の手間と費用がかかることから、生産量が年々減少していました。

そこで、技術面・費用面の両側面から組合員を支援し、山の芋の栽培を次世代へ繋ぐことを目的として平成21年に丹波山の芋生産組合が設立されました。

Q2. 組合の方針について教えてください

「丹波山の芋の生産振興および普及拡大」をモットーに、組合員を対象とした栽培講習会や資材の共同購入を行うことで、組合員の栽培技術の向上や負担の軽減を図り、収穫量の向上に繋げています。

Q3. 組合の特徴について教えてください

本組合の山の芋が築き上げてきたブランドの信頼と価値を守るため、出荷時には長年山の芋の生産に携わってきた役員が、形状や重量等をつずつ手作業で確認し、厳選された高品質な山の芋だけを出荷しています。

Q4. 現在、力を入れている取り組みについて教えてください

本組合では、組合員の相互研鑽と情報交換を目的として、毎年収穫期に「丹波山の芋品評会」を開催しています。最優秀品に選ばれた生産者には、栽培講習会で当年度の栽培過程や今後の改善点を発表してもらい、組合内で栽培技術の底上げを図っています。

また、品評会は地域の方々も観覧でき、本組合の山の芋の魅力を広く発信する機会にもなっています。

Q5. 今後の目標について教えてください

今後も、組合員の支援や情報交換の場を充実させることで、地域の特産物である山の芋の栽培を継承していきたいと考えています。

また、農業体験等のイベントを積極的に企画し、地域の方々に本組合の取り組みや山の芋の魅力を知ってもらいたいと考えています。





令和7年度 消費生活講座

災害・消費者トラブルに 備える

参加無料

1/27(火) 14:00～15:30
見逃し配信あり



オンライン
参加申込

関西国際大学
客員教授

斉藤 容子 氏



～多様性から考える地域防災～ 災害への備え

震災、豪雨、突風など私たちはいつ災害にあってもおかしくない時代を生きています。地域での避難や避難所について改めて学び、日頃の備えに生かしましょう。

講師プロフィール：人と防災未来センターリサーチフェロー、関西国際大学客員教授。
CODEで海外被災地での復興支援に携わり、国際連合地域開発センター防災計画研究員、関西学院大学災害復興制度研究所主任研究員・准教授を経て現職。

2/6(金) 14:00～15:30
見逃し配信あり



オンライン
参加申込

弁護士

北村 拓也 氏



～弁護士から学ぶ事例と対処～ レスキューサービストラブル

トイレのつまり、車のカギの閉じ込めなど、急なトラブルで高額な料金を請求されたことはありませんか。実際の事例を知り被害に遭わないための注意点を学びましょう。

講師プロフィール：すずらん法律事務所・代表弁護士 適格消費者団体ひょうご消費者
ネット理事。水道修理工事の高額請求トラブルの救済等のために尽力。

2/19(木) 14:00～15:30
見逃し配信あり



オンライン
参加申込

弁護士

岡田 崇 氏



～弁護士から学ぶ事例と対処～ インターネットトラブル

ネット通販トラブル、詐欺的な商法など、実際のトラブル事例を知り、安心してネットを活用できるよう注意点を学びましょう。

講師プロフィール：岡田崇弁護士事務所。大阪弁護士会消費者保護委員会委員。消費者問題
とインターネット関連問題を中心に弁護士活動をし、メディアへの出演、執筆活動も行う。

対象・申込み

兵庫県在住・在勤・在学の方

会場参加 (兵庫県立消費生活総合センターへ来所) 先着 30 名

①電話：☎ 078-302-4001(平日 10 時～ 17 時)

②申込サイト：

会場参加申込→



オンライン参加 (Zoom ウェビナーでの視聴) 先着 200 名

①申込サイト 上記開催日の二次元コード(オンライン参加申込)からお申し込みください。

②Zoom ウェビナー招待メールが届きます。当日、参加リンク部分をクリックしてご参加ください。

※申込後、数時間たっても招待メールが届かない場合は、下記までお電話でお問い合わせください。

③見逃し配信 1/27(火)：1/27(火) 17:00～1/30(金) 24:00 [見逃し配信]もお申し込みが必要です。

2/ 6(金)：2/ 6(金) 17:00～2/ 9(月) 24:00

2/19(木)：2/19(木) 17:00～2/22(日) 24:00

※いただきました個人情報は、当講座の運営管理にのみ使用いたします。

お問い合わせ：〒650-0046 神戸市中央区港島中町4-2

兵庫県立消費生活総合センター消費生活情報プラザ TEL:078-302-4001(平日10時～17時)

適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネット

ヨッシーの窓

みなさま、新年あけましておめでとうございます。適格消費者団体 NPO 法人ひょうご消費者ネットの吉江直記です。

みなさまは、年末年始いかがお過ごしだったでしょうか。ゆっくりできた方もお仕事や行事で忙しくされた方も、2026年がよい年になることを祈っています。私も、また気持ちも新たに今年もがんばっていきたいと思います。

ひょうご消費者ネットでは、毎年、消費者問題にまつわる様々なテーマで学習会を開催しています。2025年12月14日に「消費者トラブル相談最前線!～事例と対応～」と題して、消費生活相談員の久保保子さんにお話をいただきました。久保さんのお話は、事例に基づく「今」のお話で語りもおもしろく、勉強になります。そこでの内容で、これは騙しと気付にくいなと感じたものがあります。投資などを解説している YouTube がありますよね。その YouTuber を語った偽物から投資勧誘の連絡があるというものです。もし、その投資解説してる YouTube の視聴者であれば、それが偽物だと瞬時に気付きにくいと思うのです。とにかく、自分からの連絡で応答がある以外、相手から突然連絡がくるというのは、怪しいと思うのがよいのかなと考えています。

ひょうご消費者ネット
連絡先

〒650-0011 神戸市中央区下山手通五丁目7番11号兵庫県母子会館2階C
TEL: 078-361-7201 E-mail: office@hyogo-c-net.com



2025年度兵庫県生協連「初級経理学校」ご案内

1. 日 時 2026年3月6日(金) 13:30~16:30
2. 実施方法 オンライン (Zoom)
3. 内 容 決算関係書類の見方を理解し、経営分析の手法について学びます。ケーススタディでは決算関係書類の事例や自生協・会社の数値をもとに実際に各種経営指標を算定し、経営状況を分析する演習を行います。

経営分析の基礎

- ①決算関係書類の見方
- ②経営分析の目的と考え方
- ③収益力の分析
- ④安全性の分析
- ⑤生産性の分析
- ⑥ケーススタディ



4. 対 象 会員生協・団体の役職員
5. 講 師 日本生活協同組合連合会 管理本部 経理部
6. 定 員 30人
7. 受講料 無料
8. 申込締め切り 2月9日(月)

申し込み・問い合わせ ☎ 兵庫県生活協同組合連合会 TEL **078-894-3207**

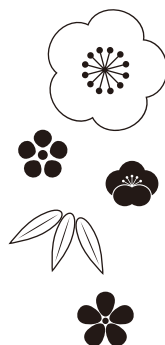
編集後記

新年あけましておめでとうございます。毎年恒例の「今年の抱負」に原稿をお寄せいただきました会員生協・団体の関係者の皆さま、誠にありがとうございます。

兵庫県生協連の事務所移転から1年が経ちました。以前の事務所に設立以来の書類・書籍が所狭しと並んでいたのを、一から整理をして引っ越しをしました。自分たちの机を取り囲んでいた数々の記録たちは、何かあった時のお守りのような存在だったので、整然とした新事務所での1年間は不安もありました。さらに2025年は国際協同組合年など節目ごとも多い年で、時には誰に何を尋ねたらいいのか、と思うこともありました。

今、清々しい気持ちで新たな年を迎えることができているのも、たくさんのご協力・ご助言をくださった皆さまのおかげです。

JCA(日本協同組合連携機構)からの通知で、日本では国際協同組合年のロゴの使用等は2026年3月まで可能とありました。ですので、3月まで…否、今後も末永くよろしくお願いいたします。



県連行事予定

- 1月10日 新春トップセミナー・賀詞交換会
- 1月22日 生協活動委員会
- 1月23日 税務・経理講習会